

# 青森県

弘前大学大学院 医学研究科 地域がん疫学講座  
松坂 方士

## 1. 青森県の特徴

青森県は本州の最北端に位置し、県面積は9,644km<sup>2</sup> (国土の約2.5%)、県人口は約130万人(総人口の約1%)、三方を海に囲まれ、中央部を奥羽山脈が縦走するという自然環境に恵まれた県です。産業は一次産業が中心であり、農業ではリンゴやニンニクなどの生産量日本一を誇っており、漁業においても全国有数の水揚げ高を誇る八戸港やクロマグロの水揚げで有名な大間港を有しています。

青森県における平均寿命、およびがんの75歳未満年齢調整死亡率は全国ワースト1(男女とも、2010年集計分)です。その原因の一つとして、喫煙率が男性1位、女性2位(平成22年度国民健康・栄養調査)、平均BMIが男性2位、女性6位(平成24年度国民健康・栄養調査)といった生活習慣の関与が考えられています。しかし、罹患率や診断時病期などから青森県のがんの実態を把握したことはこれまででなかったため、地域がん登録のデータ精度向上とそれに基づいたがん対策が課題になっています。

## 2. 青森県がん登録の歴史

青森県がん登録は、老人保健法に基づくがん検診の精度管理を主な目的として平成元年4月に開始されました。事業開始当初は青森県内の55医療機関の協力のもとに、5部位(胃、大腸、肺、子宮、乳房)を登録の対象としていました。その後、平成11年からは県内全ての医療機関、全ての部位の悪性腫瘍(頭蓋内腫瘍は良性、良悪性不明を含む)に登録対象を拡大して、がん対策全般の基礎資料としての役割を担うようになりました。また、平成15年集計分からは標準データベースシステムを導入して、他県との比較が容易にできるような取り組みも行ってきました。

青森県がん登録は青森県健康福祉部の事業として実施されていますが、平成元年から平成24年までは(公財)青森県総合健診センターが登録作業を受託していました。平成25年度からは弘前大学大学院医学研究科地域がん疫学講座が登録作業を受託しています。

## 3. 登録室紹介

青森県がん登録室は弘前大学医学部附属病院内に設置されています。登録体制は、実務担当2名(非常勤)、地域がん疫学講座教員2名(常勤)の4人体制ですが、繁忙期には弘前大学医学部附属病院内がん登録室からの支援も受けています。



青森県地域がん登録室のスタッフ

登録数は平成22年集計分で10,103症例(上皮内がんを含む)でしたが、ここ数年は毎年約500症例ずつ届出数が増加しています。罹患症例の6割以上ががん診療連携拠点病院からであり、全て電子媒体での届出です。また、その他の中核的な病院からの届出も電子媒体が主流になっており、地域がん登録室として届出に協力していただいている医療機関には積極的に電子媒体での届出をお願いしています。

## 4. 青森県の取り組み

### (1) 院内がん登録支援

平成21年度から平成25年度まで、青森県と弘前大学が共同で青森県内の医療機関における院内がん登録の立ち上げを支援する事業を実施しました。この他に、既に院内がん登録を実施している医療機関については、県内3会場で実務者研修会を開催して継続的なスキルアップを支援しました。その結果、平成21年度の段階ではがん診療連携拠点病院以外で院内がん登録を実施している医療機関は2施設のみでしたが、現在では10施設以上に増加しています。

### (2) 廻り調査

平成21年集計分から、青森県がん登録では廻り調査を実施しています。廻り調査の開始にあたっては、青森県健康福祉部から青森県医師会や地域医療の中核である自治体病院に綿密に趣旨の説明を行いました。その甲斐もあり、平成21年集計分からDCO割合が5%台と大きく低下しました。(それまでのDCO割合は40%台)

## 5. 最後に

青森県がん登録はここ数年で着実に登録精度を向上させており、このままのペースで全国がん登録に移行できればと考えています。ただ、全国がん登録についてはまだ作業内容などで不透明な部分もあり、今後、ますます皆様にご教示いただく機会が多くなると思います。どうか宜しくお願いいたします。